



宮司プレス 第四百四十五号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和元年 六月 三十日

◇宮司の柴田です。 御神殿(ごしんでん)北

側の薄紅(うすくれなひ)や水色の紫陽花(あじさい)の花が、ようやく梅雨(つゆ)入りし、しとしとと降る雨にぬらされ、色も鮮やかです。

◇昨日、奉賛会行事委員会の皆様の御奉仕により、「茅の輪(ちのわ)」が奉製(ほうせい)されました。 古今和歌集(こきんわかしゅう)に、「水無月(みなづき)の 夏越(なごし)の

祓(はらへ)する人は 千歳(ちとせ)の命 延(の)ぶといふなり」と詠まれています。 今のように、文明や医学が進歩していない頃、身のまわりに起こるごく僅(わず)かな不幸な出来事(できごと)や病氣や怪我(けが)といったものは、罪(つみ)や穢(けが)れからもたらされると考えられていました。 その罪や穢

れを祓(はら)い、神様から与えられた美しい体と清らかな心を取り戻して、この暑い夏を乗り切ろうというのが、「茅の輪くぐり、菅(すが)が

抜(ぬ)き」という「夏越の大祓(おおはらへ)」の神事(しんじ)です。 まさに、先人達の麗しい伝統文化ともいえるべき知恵であります。

民俗学者の折口信夫(おりぐち しのだ)さん

は、このような伝統的行事やしきたりのことを「日本人の生活の古典(こてん)」と仰(おつしやい)しました。 大切に守り伝えたいものです。 来月の三十日の夏越祭(なごしさい)まで、左の写真のとおり、拝殿前にこしらえてありますので、参拝の折には、「茅の輪くぐり」をされてみてはいかががでしょうか。



◇さて、この「茅の輪」ですが、「茅(かや)」と「蓬(よもぎ)」が、ステンレス製の輪に、縄(なわ)のように巻(ま)き込(こ)まれていきます。 私は、この茅と蓬は、神様の「荒魂(あらみたま)」と「和魂(にぎみたま)」を象徴しているものではないかと考えます。 神様の猛々(たけだけ)しい、強い働きが、「荒魂」です。 そして、「大難(だいなん)」は「小難(しょうなん)」に、「小難」は、「無難(ぶなん)」

にしてください。 慈(いつく)しみあふれる、お優(やさ)しい働きのことが、「和魂」なのです。 茅は、「剣(つるぎ)」といったら、少し大袈裟(おおげさ)かもしれませんが、そのよ

うな靈力(れいりよく)が、込められているのではないかと思います。 さらに、蓬は、薬草にも使われますし、見事に繁茂(はんも)は、よく生(な)い茂ります。「慈愛(じあい)」の象徴です。

◇私は、また、この茅の輪、三種の神器(じんじん)をも表していると考えます。 三種の神器は、天皇陛下の皇位継承(こういけいしよう)の証(あかし)でありまして、「鏡」と「剣(つるぎ)」、そして、「勾玉(まがたま)」です。 それぞれに、大事な徳目(とくもく)、人して備(た)え

るべき徳(とく)があります。 「鏡」が、「正直」、 「剣」は、戦いの道具かと思いきや、戦いをさけるための創意工夫である「知恵」、そして、「勾玉」は、「慈愛」という徳目です。 この「茅

の輪」の「輪」が、「鏡、正直」、「茅」が、「剣、知恵」、さらに、「蓬」が、「勾玉、慈愛」を表していると考えたのです。 写真の「茅の輪」、実は、「荒魂」「和魂」という神様のお働き、さらに、「三種の神器」の徳目が込められているので

す。 一回目は左まわり、二回目は右回り、三回目は、もう一度左まわり、この「菅抜き」、「茅の輪くぐり」をすれば、身も心も清まり、さら

さら

に、大事な徳目をも備えられるというわけですから、御霊験(これいけん)あらたかであるのは、間違(まちが)い(ご)いません。

◇江戸時代に伊勢神道を唱導(しようどう)したといわれる、伊勢の神宮さんの神職であられた度会延佳(わたらい のぶよし)さんは、「人間は神様から本性(ほんしょう)を与えられて生れてきたので、その本性を損(そこ)なうような生き方をしてはいけない」と説(と)かれています。私共は、日々の生活を懸命(けんめい)に営(いとな)んでおりますが、しらすしらすの内に、清らかな体と心と大事な徳目を見失ってしまいがちです。先月号にも記述(きじゆつ)しましたが、節目節目(ふしめふしめ)の「落ち着き」こそが、この「夏越の大祓」という神事で、本性を損なわない生き方、幸福への道のりではないでしょうか。新古今和歌集(しんこきんわかしゅう)にも、「在(あ)りきつつ 来(き)つつ見(み)れども い(い)さぎよき 人の心を われ忘れめや」と詠まれています。永き人生、心の清らかな者が、神の御心(みこころ)に叶(かな)い(い)幸(さい)せな暮(く)らしをしているようだという意味です。葉室麟(はむろりん)さんの「紫匂う」という著作に、「人は皆未熟者、未熟者とわかっていてから、懸命に生きるところに、人の生き方の清々しさがある」と書かれています。苦しく将来も見通せないような

雲のなかでも、負けずにしっかりと懸命に歩み進んでいけば、抜け出した時に、きつといいところがある、青空を見上げることができるとい希望を持ち続ける、これこそ、まさに、「雲外蒼天(うんがいそうてん)」の心意気、前述(ぜんじゆつ)の「いさぎよき 人の心、清々(せいせい)しい生き方」ではないでしょうか。

◇詩人の坂村真民(さかむら しんみん)さんの詩に、「影(かげ)あり 仰(あお)げば月あり」とあります。影(かげ)というのは、月があるから見えるのであり、真(ま)つ暗闇(くらやみ)に影(かげ)はありません。古(いにしえ)の人は、「光(ひかり)」を「かげ」と読ませました。影(かげ)あり 仰(あお)げば月あり、目には見えない大きな力、日々の暮らしに光を当ててくれる大自然の恵みに感謝(かんしゃ)をしながら、「雲外蒼天(うんがいそうてん)」、きつと澄み切った青空を見上げることができ、希望を持ち続け、共有(きょうごう)できる暮らし、本性を損(そ)なわな(な)い、い(い)さぎよき心、清々(せいせい)しい生き方というべき、敬神生活(けいじんせいご)を心がけたいものです。御自愛(ごじあい)ください。

◇六月の祭典行事会議等活動報告

- ▼月次祭 \*六月一日、十五日
- ▼貴布禰神社月次祭 \*六月一日
- ▼貴布禰稻荷神社例祭 \*六月八日
- ▼恵美須神社(海士郷町)例祭 \*六月十日
- ▼朝粥会 \*六月二十一日

▼大祓式 \*六月三十日

▼八幡宮関係団体

◆早起会総会 \*六月一日

◆維蘇志会例会(草刈奉仕作業) \*六月六日

◆奉賛会茅の輪奉製作業 \*六月二十九日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◆山口県神社庁神職大会、山口県神社庁御

代替対策委員会 \*六月六日

◆山口県敬神婦人連合会総会 \*六月十四日

◆山口県神社庁下関支部幹事会 \*六月十一日

◆山口県神社庁教化部教化委員会、山口県神社

神職養成講習会講師打合 \*六月二十日

◆北九州神職会親睦野球大会 \*六月二十四日

◆山口県神社庁巡回祭典後講話研修会

\*六月二十六日

▼教誨活動、美祢社会復帰促進センター

◆釈放前指導(男子) \*六月二十五日

▼下関西ロータリークラブ

◆例会 \*六月五日、十二日、十九日

▼講演活動

◆下関法人会総会記念講演 \*六月十三日

◆阿萩支部阿北分会神社総代会総会 \*六月三十日

▼その他

◆迫町自治会クリーン作戦 \*六月九日

◆西山小あいさつ運動 \*六月十日

◆下関市中央倫理法人会経営者モーニングセミナー

\*六月六日